

漢字の習得が苦手な児童への支援 ～実態把握による個に応じた指導の工夫～

提案者 大田原市立親園小学校 教諭
深澤 敏

1 はじめに（提案趣旨）

「児童は一人一人違う、同じ児童はない」この言葉のとおり、本来特別支援教育は一人一人に合わせたオーダーメイドであるべきであろう。

しかし、私は新しい児童を担当した時に、自分自身が受けてきた教育や、今まで自分が教えてきた経験をもとにして、支援を漫然とスタートさせ、「どうもうまくいかない」と感じてから支援方法を組み立て直してきた。「もう少し早く、きみに合ったこの方法にたどり着けたらよかったですのに……」と、省みることがある。今回の提案では、私が児童と共に歩んできた遠回りの道のりを紹介し、一人でも多くの児童への支援に役立てていただければと思う。

2 提案内容（実践事例）

実態把握は、基礎情報である知能検査や医療機関からの情報の他、書籍「はじめの一歩」のチェックリストなどを活用。さらに項目4で後述するオリジナルのリストで支援方法を随時見直した。授業中の見取りから指導方法を改善するP D C Aサイクルを実施。思うように進まないときには、その支援方法をスッパリやめる。または、量を減らして継続し、本人の様子をみながら改善方法を模索した。私のキーワード：「○○さんの今を見つめる」

ケース1 4年男子Aくんへの支援（知的学級在籍 ADD 斜めの線がうまくかけず字形が乱れる。視写はできるが、自分の字が乱れていることに気付けない。根気強い。）

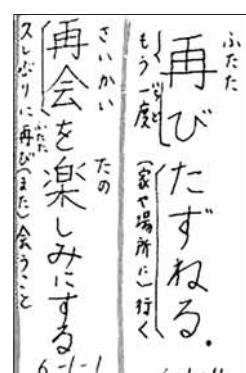
【筆ペンなぞり書き】……教師が筆ペンの薄墨で手本を書く。またはエクセルで作成する際に、字のグレースケールを調整し薄くする。児童は手本を濃い墨でなぞった後、手本を見て自分で書く。

→筆ペンという大人向けの筆記具を与えることにより、意欲が向上した。ゆっくりていねいに書き、「きれいな字だね」と褒められることで自信につながった。縮小コピーで反復し、さらに縮小した用紙に鉛筆で字形を整えて書けるまで練習した。そして、普段鉛筆で書く字でも、斜めの線を意識できるようになった。根気強いという長所を生かし、苦手を克服できた。



ケース2 5年男子Bくんへの支援（自・情学級在籍 ADHD 面倒くさがり。学習意欲が低い。漢字のへんとつくりが入れ替わる。漢字を書くことをほぼあきらめていた。長所はノリの良さとすばやい行動。）

【漢字読みカード（フラッシュカード）】……2学年下げた漢字のルビ付き短文と、言葉の意味を書いたカードを、自分で読み上げる。教師がルビを紙で隠して読みのテストを行い、読めたらルビを修正テープで消して、さらに反復練習。読めた漢字は漢字一覧表にマーカーでチェックし、進度を「見える化」する。



3・4年の漢字：学習開始直後144字→5か月後246字（全400字）

→カードをめくりながら、ただ読むだけという学習は、すばやい行動が好きなBくんにピッタリ。進度の見える化で学習意欲が向上。読める漢字が増え、社会や理科の交流学習に自信を持てるよう。卒業時には6学年すべての漢字の読みが一通り終了した。

【市販の漢字ドリル】

→なぞり書きが嫌いなBくんには、なぞり書きを求める。反復練習の欄で3回練習。漢字の書きテストを音声で出題し、もし書けなかったときには、練習した漢字を教師が消しゴムで消して、再び練習させる（Bくんには抵抗がない方法）。Bくんが苦手な筆順にはこだわらない。はねやはらい、字形の乱れは大目に見て○をつけ、「ここ、はねるとかっこいいね」と持ちかけると素直に直すことができた。徐々に字形を意識するようになった。問題の読み上げによる漢字テストを行い、書けた漢字を漢字一覧表にマーカーでチェックし、進度の見える化を図ることで、意欲につながった。

2・3年の漢字：学習開始直後60字→5か月後190字（全280字）

【教師手書きの漢字練習シート】……1つの漢字に対し、いくつかの熟語や表現で手本を与え、漢字の意味を捉えさせる。

→漢字の意味を少しずつ理解するにつれて、全然別の漢字を書くなどのとんでもない間違いがなくなった。新しい漢字を知った時に、自分が覚えた漢字と照らし合わせて考えることができるようになっていた。

【1回だけ漢字練習カード】……Bくんがどうしても間違えてしまう漢字を、教師が大きく手書きし、ポイントを色分け。漢字の意味や熟語の例などを1枚のカードにして、そのカードに直接1回だけ練習する。→字形のポイントや意味が一目でわかるカードに1回だけ漢字練習するという課題は、Bくんにもクリアしやすかった。間違えた時には、教師が消しゴムで消し、反復練習させたので、定着するまで練習するという根気強さが身に付いてきた。



ケース3 5年女子Cさんへの支援（通常学級在籍、他校ことばの教室通級、週1回校内通級

A D H D L D 斜めの線が書けない。一画抜けたり増えたりする。線の長さが意識できない。記憶力が低い。）

×失敗例【筆ペンなぞり書き】：Aくんに効果的だった方法だが、Cさんには効果がなかった。→斜めの線がうまく書けないという実態が二人とも似ていたので用いた。筆ペンで丁寧にきれいに書き本人は満足したが、後日鉛筆で書く時には元のように乱れてしまった。時間ばかりかかり学习効果がほとんどないので、取りやめた。

◎ヒントになった出来事……ちびむすドリル幼児用3つの間違い探しを与えたところ、「わたしこれ好き！難しいけど……。」できないのに楽しそうな様子を見て、クイズやゲームなど楽しみながら学習することがCさんに合っていそぐだと気付いた。

【漢字パズル】……漢字の部品をパズルピースにした自作教材。ピースを組み合わせることにより漢字を完成させる。あえて間違いのピースも混ぜておくことにより、字形に注目させる。困った時には同じ大きさの手本を見ながらやらせた。

→楽しみながら、何度も手本を見て操作するので、画数や部首の位置関係などを意識するようになった。



【漢字クイズ】……漢字パズルで完成させることができた漢字について、3択クイズで正しい漢字を選ばせる。正しい漢字を3回練習する。
→漢字パズルを置いたままクイズをやると、もう一度位置関係を意識することができた。後日漢字パズルを見せずにクイズだけを行い、記憶の強化に努めた。

×失敗例：漢字パズルと漢字クイズは、次にやるタイミングが空きすぎてしまうと、前にこの漢字をこの教材で学習したことそのものを忘れてしまった。忘れる前に反復すること（エビングハウスの忘却曲線を意識した学習計画）が大切。

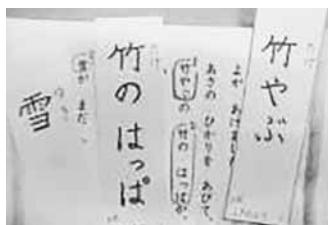


3 成果と今後の課題

試行錯誤の結果、支援の手段を広げることができた。手作りの教材で児童に思いが伝わることが、児童の変容につながることを実感できた。今後は児童に合った方法を短時間で見つけるために、小出しにいろいろ試すことをしていきたい。また、漢字読みカード（フラッシュカード）など、導入しやすい教材の良さを、積極的に広めていきたい。

4 参考：私が考える児童の実態に応じた漢字指導

段階	児童の実態	指導方法・指導内容（児童に合わせて指導方法を選ぶ）
0	学習以前の情緒面・生活面の課題が大きく、学習が不成立	一緒に遊ぶ。たくさん笑い合う。小さなことを褒める。自立活動で感情のコントロール法や規範意識などを育てる。
1	本が嫌い。字を読むのも書くのも嫌い。	紙芝居。本人が好きなマンガや図鑑などの読み聞かせ。語彙+を増やす絵カード。MIM。きくきくドリル。
2	漢字が読めない。指で追いかながら文章を読めない。	教科書にふりがなをふる。漢字フラッシュカードの反復練習。ディジー。1行分の窓を開けた白い厚紙。幼児向け絵本などを自分で読ませる。オールひらがなの文章を書かせる。（質より量）簡単な読書感想文（週に2冊）
3	少し漢字が読める。書くのは苦手。字形が乱れる。斜めの線が書けない。	教科書の漢字に番号を振り、漢字フラッシュカードを使って読む練習（写真）→読みテスト（ふりがなを隠して読ませる。） ※まず読めるようになる。書けるのは後からでもOK。 巨大なマスを使った筆ペンでのなぞり書き。徐々に小さなマスにしていく。自分で書いた文章を自分で読み、自分で間違いに気付かせる。
4	読める漢字が増えてきて意欲が出てくる。漢字を書こうとする。	大きめの漢字カード（字形のポイントを強調、音読み訓読み、いくつかの熟語）。お手本と意味を与えて漢字練習の宿題→漢字書きテスト。漢字一覧表で読み書きチェック。一つの漢字をセットで学習。漢字書きテスト。できるまで宿題とテスト。漢字カルタ・部首カルタで漢字の意味に興味をもたせる。
5	当該学年に追いつこうとする。	漢字相互の関係を捉えさせる。同じ意味の別の言葉探し。同じ音の違う漢字。部首の意味。音を表す部首。 私の辞書（調べた漢字をノートに書く）。自分が書いた文章をなるべく漢字に直す。



段階3：漢字フラッシュカードを使って教科書を読む練習